

## 平成25年度 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施要項

### 1 趣 旨

思春期にある中学生は、心身ともに大きく成長する時期であり、とりわけ自分自身を内側から強く揺り動かす性衝動や攻撃性などの葛藤が旺盛な時期である。また、将来に対する不安や、否応なく迫られる進路決定への複雑な思いの中で、目的や目標を見いだせずにいる生徒も少なくない。

本事業は、生徒たちに時間的、空間的なゆとりを確保し、地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、豊かな感性や創造性などを自ら高めたり、自分なりの生き方を見つけることができるよう支援するなど、「教」より「育」を中心にすえた「心の教育」を確実に推進してきた。この実績等を踏まえ、ともすれば知育に偏りがちな教育を是正するとともに、地域に学び、共に生きる心や感謝の心を育み、自律性を高めるなど、「生きる力」の育成を図っていくことが肝要である。

また、活動の充実を図るため、目的意識を明らかにする事前指導、体験で学んだことをその後の生活に生かすための事後指導の創意工夫が期待される。

さらに、この体験活動の推進にあたっては、保護者・地域社会・関係機関等の十分な理解を得るとともに、校区推進委員会のより一層の充実を図り、新たな教育の創造へとつなげていくことが大切である。

### 2 実施対象

公立中学校及び県立中等教育学校前期課程2年生の生徒全員

### 3 時 期

原則として、6月または11月を中心とする1週間とする。

### 4 実施内容

体験活動は、班単位で行うこととし、班ごとに1名の指導ボランティアを充てる。

#### (1) 体験活動の内容

下記の内容を例示するが、あくまでも生徒の興味・関心をもとに、地域や学校の実態に応じて創意工夫することが望ましい。

##### 【体験活動内容例】

- ・農林水産体験活動：農業、酪農、漁業、林業等の活動
- ・職場体験活動：地域のいろいろな職場での体験活動
- ・文化・芸術創作体験活動：絵画や音楽等の活動、地域・郷土芸能活動
- ・ボランティア・福祉体験活動：地域でのボランティア活動、福祉施設等での活動
- ・その他：外国人との交流、情報・科学技術・環境等に関する活動等

#### (2) 教育課程上の取扱い

年間指導計画のもとに、特別活動を中心に各学校の実態により編成する。

#### (3) この期間中は自宅等から各自の活動場所へ通うことを原則とする。

(4) 特別な教育的配慮を要する生徒については、原則として該当学年の生徒とともに参加するものとするが、生徒の実態に応じて参加形態を工夫する。

(5) 生徒の体験活動の内容を選定するにあたっては、労働基準法や青少年愛護条例等との関連を考慮すること。

### 5 推進体制

この事業では、学校・家庭・地域三者の連携が不可欠で重要な要素である。よって、三者の役割を明確にし、三者がともにそれぞれの役割を果たすための万全の準備、活動、協力を行うことが必要である。なお、この事業は、学校だけで実施するものではないの

で、地域の子どもは地域で育てるという観点と教育支援システムの活性化による「地域コミュニティの構築」という観点が大切である。

(1) 推進協議会（県・市町）

推進協議会は、校区の推進委員会の組織化の支援、関係諸団体との調整、指導ボランティアの確保などを行う。

(2) 推進委員会（中学校区）

学校が調査した生徒の希望に応える受入先や指導ボランティアの確保等を行う。その確保が困難な場合は、県・市町段階の推進協議会に照会するなど、推進体制の確立を図る。

また、市立特別支援学校の参加がある場合は、情報提供等の支援を行う。

(3) 中学校

実施に当たっては、各校の実態に応じて、生徒の希望や保護者の思いなどを十分把握した上で校区の推進委員会に活動内容の希望を提出し調整を図る。

(4) 指導ボランティア

保護者・高齢者等地域の人々や、企業・施設等の関係者が指導ボランティアとなり、主として生徒の活動に対する指導や支援に当たるとともに、生徒の状況等を把握し、学校との連絡等を行う。

(5) 介助補助員

生徒の体験活動を援助するため、介助補助員を充てることできる。

## 6 報告書等

事業の実施に際して、年度の始めに活動計画書を、12月末に活動報告書を県教育委員会へ提出する。

本事業の成果の検証等を目的として、必要に応じてアンケート調査等を行う。

## 7 経 費

- (1) 本事業に対し、兵庫県教育委員会交付金交付要綱の規定により交付金を交付する。  
対象となる経費（例示）

活動運営経費	体験活動の運営及び指導等に必要な資料等に要する経費
会議費	指導ボランティア連絡会に係る経費、推進委員会等に要する経費
介助補助員謝金	生徒の活動の支援に当たる介助補助員に要する謝金
保険料	生徒及び指導ボランティア等の傷害・損害保険に要する経費

- (2) 県立中等教育学校及び兵庫県立大学附属中学校については、必要経費を予算の範囲内で令達する。

## 8 その他

別紙「平成25年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」をより充実させるために」にあるように、本年度活動をより充実させるために重点項目を定めているので、それらを配慮して取り組むこと。

平成24年度

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」のまとめ

平成 25 年 3 月

兵庫県教育委員会



## 目 次

平成24年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況 のまとめ	
1 参加生徒数等について	・・・ 1
2 公立中学校及び県立中等教育学校の活動について	・・・ 2
3 市立特別支援学校の活動について	・・・ 7
地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション） 実施状況のまとめ	・・・ 8
[資料1] 平成24年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実 施後アンケート調査の結果	・・・ 9
[資料2] 平成24年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員 会について	・・・ 13
[資料3] 文化・芸術創作活動および地域活動・郷土活動の取 組例 地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」ア クション）の取組例	・・・ 14

平成24年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況のまとめ

1 参加生徒数等について

- (1) 実施校は、366校(全公立中学校347校、県立中等教育学校1校、市立特別支援学校18校)  
 6月を中心に実施した学校 : 235校(64.2%)(内数:市立特別支援学校4校)  
 11月を中心に実施した学校 : 131校(35.8%)(内数:市立特別支援学校14校)
- (2) 実施期間は、平成24年5月7日～平成24年12月7日
- (3) 参加生徒数は、49,514名(内数:特別支援学級531名、市立特別支援学校115名)
- (4) 班数は、17,515班で1班平均2.8名
- (5) 活動場所数は、17,312カ所で生徒2.9名につき1カ所
- (6) 指導ボランティアの数は、22,855名で生徒2.2名につき1名
- (7) 市立特別支援学校の介助補助員数は、55名



年度	実施校数	2年生		班の数	活動場所の数	指導ボランティアの数
		学級数	生徒数			
H24	366	1,448	49,514	17,515	17,312	22,855
H23	365	1,437	48,885	17,355	17,306	21,992
H22	368	1,413	48,094	17,110	16,325	19,858
H21	369	1,403	47,271	16,487	15,893	20,093
H20	371	1,428	48,806	17,515	16,267	19,810
H19	370	1,381	46,821	17,019	15,498	20,509
H18	370	1,411	48,187	17,381	15,590	20,593
H17	372	1,437	48,546	16,613	15,720	20,743
H16	372	1,430	48,913	16,239	15,561	20,269
H15	365	1,440	49,782	16,833	15,671	20,687
H14	364	1,496	52,216	18,243	15,985	21,573

年度	班編制	活動場所	指導ボランティア
H24	1班:2.8名	2.9名につき1カ所	2.2名につき1名
H23	1班:2.8名	2.8名につき1カ所	2.2名につき1名
H22	1班:2.8名	2.9名につき1カ所	2.4名につき1名
H21	1班:2.9名	3.0名につき1カ所	2.4名につき1名
H20	1班:2.8名	3.0名につき1カ所	2.5名につき1名
H19	1班:2.8名	3.0名につき1カ所	2.3名につき1名
H18	1班:2.8名	3.1名につき1カ所	2.3名につき1名
H17	1班:2.9名	3.1名につき1カ所	2.3名につき1名
H16	1班:3.0名	3.1名につき1カ所	2.4名につき1名
H15	1班:3.0名	3.2名につき1カ所	2.4名につき1名
H14	1班:2.9名	3.3名につき1カ所	2.4名につき1名

2 公立中学校及び県立中等教育学校の活動について

(1) 活動内容

ア 分野別

活動分野	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14
職場体験活動	84.4%	83.5%	81.7%	82.6%	82.0%	82.7%	81.0%	81.3%	79.2%	77.0%	76.5%
ボランティア・福祉体験活動	7.3%	7.8%	7.8%	7.0%	7.5%	6.6%	6.7%	7.0%	7.9%	7.0%	7.0%
文化・芸術創作体験活動	3.7%	3.9%	3.8%	4.5%	4.8%	5.0%	6.1%	5.8%	5.7%	3.9%	4.7%
農林水産体験活動	2.4%	2.5%	2.7%	2.8%	2.9%	2.8%	3.1%	3.2%	3.5%	3.8%	3.8%
その他	2.2%	2.3%	4.0%	3.1%	2.8%	2.9%	3.1%	2.7%	3.7%	8.3%	8.0%

文化・芸術創作活動には、平成16年度から地域活動・郷土活動が含まれている。

イ 内容別(上位10の活動内容)

活動内容	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14
幼児教育	20.8%	20.7%	20.9%	21.1%	21.0%	21.0%	20.6%	20.6%	20.2%	20.0%	19.1%
販売	19.3%	19.2%	19.6%	19.3%	19.4%	20.3%	20.1%	20.9%	20.6%	20.0%	21.6%
役所・消防署等	7.9%	8.4%	7.8%	8.0%	7.8%	7.8%	7.8%	8.1%	7.9%	8.6%	7.9%
飲食店等	6.4%	6.6%	6.1%	6.4%	6.1%	5.5%	5.4%	5.3%	5.2%	5.2%	5.1%
社会福祉施設	6.3%	6.5%	5.9%	5.4%	5.5%	5.0%	5.2%	5.3%	5.7%	5.3%	5.2%
小学校・高校・大学	5.4%	5.0%	4.6%	4.6%	4.3%	4.2%	4.0%	3.0%	-	-	-
製造・建築	5.0%	4.7%	4.9%	4.9%	5.7%	5.8%	5.9%	5.9%	5.8%	6.0%	6.2%
文化・芸術創作活動	3.7%	3.9%	3.8%	4.5%	4.8%	5.0%	6.1%	5.8%	5.7%	3.9%	4.7%
スポーツ・体育施設等	3.7%	3.8%	3.7%	3.7%	-	-	-	-	-	-	-
病院等	3.6%	3.7%	3.5%	2.9%	3.4%	3.3%	3.3%	3.3%	3.2%	3.1%	3.6%

文化・芸術創作活動には、平成16年度から地域活動・郷土活動が含まれている。

ウ 本年度の特色ある取組(資料3参照)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・有馬温泉での炭酸せんべいの製造</li> <li>・和ろうそく作り</li> <li>・名塩和紙製作体験</li> <li>・釣り竿、釣り針製造</li> <li>・そろばんづくり</li> <li>・もちむぎ麵づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、婦人会との連携で地域のPR活動</li> <li>・カキの殻むき</li> <li>・鬼瓦製作</li> <li>・ふき戻しの製作</li> <li>・さをり織り作業</li> <li>・金星太陽面通過観測</li> </ul>	
--	--	---

(2) 生徒の希望達成度

・第一希望が叶えられた生徒は、70.0%である。

活動内容	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14
・第一希望が叶えられた生徒	70.0%	70.9%	70.6%	70.0%	70.7%	69.8%	72.0%	71.2%	70.4%	73.5%	71.6%
・第二希望が叶えられた生徒	17.1%	16.5%	16.2%	16.5%	16.1%	17.4%	16.6%	16.7%	16.3%	15.8%	16.4%
・第三希望が叶えられた生徒	6.8%	6.6%	6.5%	7.2%	6.6%	6.8%	6.5%	6.5%	6.3%	5.9%	6.7%
・その他	6.1%	6.0%	6.7%	6.3%	6.6%	6.0%	4.9%	5.6%	7.0%	4.8%	5.3%

(3) 第一希望にならなかった生徒への対応

- ・他の紹介及び新しい受入先開拓 ……68.8%
- ・活動の意義の話 ……58.9%
- ・時間をかけて話し合った ……50.4%

(4) 生徒の「やりたいことができる」活動場所の確保について

- ・新規の活動場所の割合(数)・・・12.8%(2,202カ所)
- ・校区外の活動場所の割合(数)・・・41.5%(7,140カ所)

(5) 事前指導について

ア 事前指導の平均時間数・・・11.4時間

イ 主な事前指導の内容例(公立中学校及び中等教育学校の実施率)

・趣旨及び活動説明会	(99.2%)	・名刺作り等	(78.8%)
・希望調査	(97.7%)	・ボランティア等との打ち合わせ	(78.8%)
・受入先への訪問	(97.5%)	・出発式	(75.6%)
・マナー指導等	(92.1%)	・進路(職業調べ等)、福祉学習	(69.7%)
・受入先の紹介等	(89.8%)	・他学年、地域等への啓発活動	(61.5%)

(6) 事後指導について

ア 事後指導の平均時間数・・・7.6時間

イ 主な事後指導の内容例(公立中学校及び中等教育学校の実施率)

・礼状作成等	(97.2%)	・広報活動	(49.6%)
・感想文集作成等	(95.2%)	・「トライやる」アクション	(32.9%)
・実践発表会	(80.7%)	・交流会	(14.4%)
・発展学習	(64.6%)		

発展学習実施校(228校)の内訳

進路学習(98.2%)	福祉・健康学習(41.7%)	情報学習(32.5%)
人権学習(23.2%)	防災学習(15.4%)	環境学習(12.7%)
平和学習(6.1%)	国際理解学習(5.7%)	

(7) 「トライやる・ウィーク」における校種間連携について

小学校と連携した取組の実施	51.8%
高等学校と連携した取組の実施	3.7%



[ 連携した内容 ]

- ・小学校での活動によって、小学生がトライやる・ウィーク活動を理解するとともに、小学生へのキャリア教育の題材にしてもらっている。
- ・トライやるアクションとして実施した「たそがれコンサート」に、小学校も合奏で参加してもらった。
- ・トライやる・ウィークの活動期間中、空いている2年生の教室を活用し、校区内の小学校6年生対象の授業を実施した。一部の授業では、中学校の教師が授業を担当し、中学校の雰囲気を経験してもらった。
- ・活動場所として小学校を選択できるようにするだけでなく、校区推進委員会にも小学校教員に入ってもらい意見を出してもらっている。小中連携した取り組みの一環として取り組んでいる。
- ・トライやる・ウィーク実施後に小中学校で、成果と課題について話し合った。
- ・校区の高等学校に、インターンシップの受け入れや出前講座として高校生に体験発表会をしてもらった。

( 8 ) 感想・意見等 ( アンケート調査結果は資料 1 参照 )

生徒 ( 47,619 名 )

働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを感じた	90.9%
社会のルールやマナーの大切さを感じた	74.8%
コミュニケーションの大切さを感じた	74.0%
大人の人の優しさを感じた	69.1%
人とのふれあうことの楽しさを感じた	68.5%
達成感や自信を感じた	66.4%
人のために役に立つうれしさを感じた	66.0%
保護者や大人の大人への感謝の気持ちを感じた	64.9%
学校で学んだり活動する目的の大切さを感じた	49.0%

- ・ 私達の気が付かないところで私達のためにたくさんの方が働いていることが分かった。
- ・ 大人としての責任を果たすことの大変さを感じた。
- ・ 大人は、忙しくても子どもには見せないようにしていてすごいと感じた。
- ・ 人に何かをすることで喜んでもらえることがうれしかった。
- ・ 感謝の言葉はもちろん、ごめんなさいという言葉の大切さを学んだ。
- ・ 我慢や挨拶の大切さに気付き、将来のために今できることを真剣に考えるようになった。
- ・ 働いている両親は、疲れているはずなのに帰宅すると笑顔です。私は 5 日間の活動だけでも疲れきっていて、笑顔を見せることはできませんでした。両親の偉大さがわかり、感謝しないといけないと思った。
- ・ 真剣にやることや人のために働くということの大切さや使命感を感じた。
- ・ 学校では大勢のまとまりで見られてしまうが、事業所は 4 人で、それぞれ思ったよりもたくさんの責任ある仕事を任せられ、何とも言えない充実感を味わった。
- ・ 自分の言動に責任を持つことや協力の大切さに気づいた。

保護者

- ・ 責任感や社会の厳しさを学ぶことができ、有意義なものだったと思う。
- ・ 子どもの気持ちは充実していたが、実際にお世話になった職場の方の感想が気になる。
- ・ 何でも実際にやってみる、体験するという事は、心の財産になると思う。
- ・ 受身で過ごしてきた子どもが、活動を通して主体的に行動できるようになったと思う。
- ・ その日にあったこと、感じたこと、事業所の様子などについて、話しても話しても尽きることはないくらい充実していました。
- ・ 受入事業所の方には忙しい中、時間と人手をかけて接してもらい、本当にありがたかった。
- ・ 日を重ねるうちに「しんどい」という言葉はなくなり、体験や感じたことを話すようになった。
- ・ 元気に出かけ、生き生きしていた。普段の会話が少ないのだが、話題が増えた 5 日間だった。
- ・ 人と関わることの難しさや喜びを感じることができたと思う。この経験が、社会に出る子どもたちにとって、何らかのヒントを学習できるものであってほしい。
- ・ この時期は街中のあちらこちらで中学生の頑張っている姿が見られ、親として社会人として子どもたちに恥ずかしくない仕事ぶりや行動を示さないといけないと思った。中学生の学びと経験の場でありながら、地域全体が気持ちを新たにできた活動だった。
- ・ 目標を持って生活する楽しさ、仕事や人との関わり方の大切さも見えてきたと思う。
- ・ 最初は想像していたことと現実の違いを感じ戸惑っていたが、事業所の方の責任ある行動に良い影響を受けたようであった。

## 関係者

- ・通常の仕事の傍らで中学生を世話することは大変だが、「自分の子どももこうやって世話になったんだ。」と思いながら接した。
- ・スタッフにとっても、なぜ仕事をするのか、自分たちの仕事は地域とどう関わっているのかなど考えるよい機会になりました。
- ・活動日誌に「保護者の方から」の欄があり、これが大変参考になった。保護者の気持ちを考え接することができた。
- ・5日間でも必ず進歩が見られる。できるだけ声をかけ、貴重な体験になるよう努めている。
- ・中学生への評価等、受け入れ側からの声を生徒にしっかり伝えてほしい。社会で認められることや評価は、本人の成長にプラスになると思う。
- ・地域の大人と触れ合うことは、生徒にとって有意義であると思う。また、我々も新鮮な気持ちになり、良い刺激になった。
- ・体力的にしんどい作業だったが、弱音を吐かず頑張ってくれた。
- ・生徒の集中力の維持に留意して実施した。誠意を持って対応すれば、生徒にも「心」が伝わるのだなと感じた。
- ・中学生を受入れる事で、作業の安全面等、弊社自身気付かされる事があった。仕事を通して、人とのふれあいの大切さを考える良い機会になったと思う。
- ・次代を担う中学生にとっては有意義で、地域社会にとっても価値があり大切だと考える。
- ・自分が幼稚園の時にトライやる・ウィークで出会った中学生との思い出から、何か恩返しをしたいということで幼稚園に来るケースが増えている。トライやる・ウィークの活動が定着してきていると感じる。
- ・地域に密着した教育の活動として、こちら側にも学ぶことが多かったように思う。
- ・トライやる・ウィーク実施前に、日頃の中学生生活の様子などが聞けるような会を設けてもらえると良いなと思う。

## 教職員

- ・地域を知る良い機会になった。
- ・初めてトライやる・ウィークを教師側で経験しました。事前学習や事後学習、これまでの学校での時間の大切さを感じた。
- ・学校では見られない生徒たちの一面が垣間見られて、生徒理解・認識に役立った。
- ・中学校や家庭で指導しきれない部分を、事業所の方々が愛情を持って指導して頂き、本当にありがたかった。
- ・普段の学校生活で登校しづらい生徒にとって、気持ちに変化をもたらすことができる活動だと思う。自分に与えられたチャンスを前向きに受け止めているものが多かった。
- ・作業のやり方を丁寧に教えていただいたことに対して、生徒の感謝の言葉が多かった。
- ・自分も経験した活動だが、15年たって振り返ると、改めて中学生が夢の一步へ踏み出す“ステップ”になっている活動だと思う。
- ・少人数の方が効果が高まるので、受入先を増やす努力をしなければいけないと感じた。
- ・職業体験だけでなく、地域の人と触れ合うことや社会との関わりを持つチャンスでもあり、心の教育になっていると思う。
- ・可能な限り地域で活動するという取組は大変良かった。地域の子は地域で育てることが達成されていると思った。
- ・日常生活や学校生活と結びつけていくことが大切である。ボランティアの方々の指導ぶりに学ばされることが多かった。また、学校が地域に支えられているということをもさらに強く認識した。

( 9 ) 不登校生徒への影響 ( 市立特別支援学校は除く )

- ・ 1 年生の時に不登校の生徒 ( 年間 30 日以上 の 欠席 ) のうち、「トライやる・ウィーク」に全日参加した生徒は、457 名 ( 全体の 46.4% ) であった。
- ・ 実施後 1 ヶ月の状況は、175 名 ( 全日参加生徒の 38.3% ) の生徒の登校率が上昇した。実施後 2 ヶ月の状況は、157 名 ( 全日参加生徒の 34.4% ) の生徒の登校率が上昇した。

	調査校	在籍生徒数	左のうち 1 年生の時に不登校の生徒数	全日参加生徒数	実施後 1 ヶ月の状況 登校率の上昇した生徒	実施後 2 ヶ月の状況 登校率の上昇した生徒
H24	348校	49,399名	984名	457名	175名	157名
				46.4%	38.3%	34.4%
H23	348校	48,781名	916名	427名	163名	154名
				46.6%	38.2%	36.1%
H22	350校	48,614名	887名	344名	128名	129名
				38.8%	37.2%	37.5%
H21	352校	48,021名	934名	383名	152名	143名
				41.0%	39.7%	37.3%
H20	354校	49,323名	948名	405名	151名	139名
				42.7%	37.3%	34.3%
H19	353校	47,369名	965名	442名	159名	144名
				45.8%	36.0%	32.6%
H18	354校	48,677名	928名	416名	163名	150名
				44.8%	39.2%	36.1%
H17	355校	49,025名	989名	467名	174名	162名
				47.2%	37.3%	34.7%
H16	359校	49,413名	1,030名	482名	193名	192名
				46.8%	40.0%	39.8%
H15	360校	50,304名	1,001名	453名	184名	167名
				45.3%	40.6%	36.9%
H14	360校	52,770名	1,146名	544名	217名	198名
				47.5%	39.9%	36.4%

3 市立特別支援学校の活動について(平成 17 年度から実施)

(1) 実施校数 18 校

6 月を中心に実施した学校：4 校、11 月を中心に実施した学校：14 校

(2) 実施期間 平成 24 年 5 月 21 日～11 月 21 日

(3) 参加生徒数 115 名(41 クラス、在籍生徒数 147 名)

(4) 班数 85 班(1 班平均 1.4 名)

(5) 指導ボランティア数 137 名(生徒 0.8 名につき 1 名)

(6) 介助補助員数 55 名(生徒 2.1 名につき 1 名)

	実施校数	2 年生		班の数	活動場所 の数	指導ボラン ティアの数	介助補助員 の数
		学級数	生徒数				
H24	18	41	115	85	119	137	55
H23	17	41	104	68	96	149	89
H22	18	38	104	68	93	145	118
H21	17	37	97	62	104	159	92
H20	17	38	111	65	100	183	98
H19	17	34	82	59	87	115	58
H18	16	31	78	43	65	79	48
H17	17	30	75	42	75	100	39

	班編制	活動場所数	指導ボランティア数	介助補助員数
H24	1 班：1.4 名	1.0 名につき 1 ヲ所	0.8 名につき 1 名	2.1 名につき 1 名
H23	1 班：1.5 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.2 名につき 1 名
H22	1 班：1.5 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	0.9 名につき 1 名
H21	1 班：1.6 名	0.9 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.1 名につき 1 名
H20	1 班：1.7 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.1 名につき 1 名
H19	1 班：1.4 名	0.9 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.4 名につき 1 名
H18	1 班：1.8 名	1.2 名につき 1 ヲ所	1.0 名につき 1 名	1.6 名につき 1 名
H17	1 班：1.8 名	1.0 名につき 1 ヲ所	0.8 名につき 1 名	1.9 名につき 1 名

(7) 活動場所数 119 ヲ所

居住地中学校区内で活動した生徒の割合 28.7%(33 名 / 115 名)

(8) 活動内容

ア 分野別

活動分野	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17
職場体験活動	62.9%	55.8%	45.5%	51.9%	54.9%	53.8%	64.5%	56.7%
ボランティア・福祉体験活動	12.7%	23.5%	16.5%	16.4%	20.2%	14.8%	14.2%	17.9%
農林水産体験活動	11.1%	12.7%	15.6%	13.5%	9.1%	8.6%	7.1%	12.7%
文化・芸術創作体験活動	9.1%	7.3%	6.5%	9.1%	8.7%	10.0%	12.2%	11.2%
その他	4.2%	0.8%	16.0%	9.1%	7.1%	12.8%	2.0%	1.5%

イ 内容別(平成 24 年度上位 6 の活動内容)

社会福祉施設	12.7%	文化・芸術創作活動	9.1%
農業・酪農	11.1%	販売	8.8%
水族館・動物園	10.4%	製造・建築	7.5%

ウ 本年度の特色ある取組

・平清盛ドラマ館接客対応	・空港事業所 搭乗手続き、荷物検査	
・農園での箱折り、箱詰め	・ヘルメット部品の組み立て	・ハーブの小物作り
・温泉でのシャンプー & リンスの補充、風呂洗い、接客対応	・クッキー作り	
・大正ロマン館での環境美化作業、特産物の展示		

地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション）実施状況のまとめ

(1) 実施校 208校 56.8%

(2) 参加生徒数 ( )内は特別支援学校生徒参加数：内数

学年	参加生徒数	1校当たりの参加生徒数
1年生	15,557名(16)	74.8名
2年生	16,903名(17)	81.3名
3年生	12,970名(16)	62.4名
合計	45,430名(49)	218.4名

(3) 活動内容について ( )内は特別支援学校：内数 (複数回答あり)

活動区分	実施校数	割合	実施数	割合
地域の祭り等を企画、運営する活動	111校(2)	53.4%	286(2)	34.1%
清掃活動等を諸団体と連携して行う活動	168校(3)	80.8%	429(3)	51.1%
「トライやる・ウィーク」の継続的な活動	48校(1)	23.1%	124(1)	14.8%
	母数は、実施校数		839(6)	100%

(4) 活動の内容例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の夏祭り、運動会等の企画</li> <li>・地域伝統行事への参加及び運営補助（地蔵盆手伝い、しめ縄づくり、餅つき等）</li> <li>・清掃活動、ポイ捨て防止キャンペーン、資源ゴミ回収、海岸清掃</li> <li>・地域の方とのスポーツ・文化交流、市民マラソン大会</li> <li>・人権パレード、人権集会、健康フェスタ、禁煙セレモニー、献血推進運動</li> <li>・ふれあいコンサート、定期演奏会、名曲コンサート</li> <li>・商店街パレード、商店街周回路電飾点灯式</li> <li>・東日本震災ボランティアコンサート、ユニセフ募金活動、歴史ボランティアガイド</li> <li>・地区防災訓練、消防大会、出初め式、仮設トイレの組み立て</li> <li>・交通安全キャンペーン、青少年非行防止キャンペーン</li> <li>・長寿祝いの会、敬老会、高齢者元気まつり、デイサービス施設訪問、配食サービス</li> <li>・おもちゃ教室、ため池学習、手漉き和紙作り体験、草木染め教室、親子凧作り</li> <li>・幼稚園・保育園のトイレ掃除、園庭草抜き、お兄さんお姉さん体験</li> <li>・職場体験（宿泊施設、大工、食堂、介護、ペンキ塗り、接客、ガスメーター検針）</li> <li>・落花生豆腐作り、芋掘り、稲刈り、農業体験</li> </ul>
--

(5) 実施時期について ( )内は特別支援学校：内数 (複数回答あり)

	実施校数	割合	実施数	割合
土曜、日曜日等を利用して実施	171校(5)	82.2%	486(5)	58.1%
夏季休業中に実施	120校(1)	57.7%	329(1)	39.3%
冬季休業中に実施	11校(0)	5.3%	15(0)	1.8%
春季休業中に実施	5校(0)	2.4%	7(0)	0.8%
	母数は、実施校数		837(6)	100%

[ 資料 1 ] 平成 2 4 年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施後アンケート調査の結果（調査実施校数 3 4 8 校）

- 1 生徒アンケート（回答数 47,619 人）
- 2 保護者アンケート（回答数 34,362 人）
- 3 関係者アンケート（回答数 12,430 人）
- 4 教職員アンケート（回答数 3,230 人）

